ISSN 0287-976X

# Lib,

京都産業大学図書館報
v.28, no.2 (Oct. 1, 2001)
ホームページに掲載中 http://wwwlib.kyoto-su.ac.jp/

本学所蔵 賀茂葵祭行装ノ図より

## 特集 日本の伝統芸能

新鮮な古典、日本の伝統芸能　金井 清一　1
「ロック・ソーラン」と風の盆　小林 一彦　2
お能のこと　位ノ花 俊明
歌舞伎をたのしむために　野澤 ユメ子 3
古典落語はどんなんかな？　松本 恒平
伝統芸能に関する５０選　4

### 新鮮な古典、日本の伝統芸能

金井　清一

文化学部の基礎科目で私の担当した「日本古典文化」では、二種のレポート課題から一種を選択させたが、劇場に赴いての古典芸能の鑑賞報告を、およそ３割の学生が選択した。そしてそれらのレポートは、おおむね他のもう一種の課題レポートより成績は優れていた。その理由は、提出されたレポートには、ほとんどが初めて観た古典芸能に対する生き生きとした感動が記されていたことによる。

**古典芸能とは何か**

私のいう古典芸能とは、能（狂言を含む）、人形浄瑠璃（別称、文楽）、歌舞伎である。これらは今では芸能というより完全な芸術の一分野であり、演劇の一形態である。ＴＶのいわゆる芸能人、空騒ぎをＴＶの画面でしているだけの芸能人の芸能とは全く異なったものだ。同列に論じられるべきものではない。しかしながら考えてみると、上記三種の古典芸能も、もとはといえば下層の民間芸能から出たものなのだ。それがそれぞれ世阿弥やら近松やら、竹本義太夫やら坂田藤十郎など、その他多くの天才、名人、名優の洗練努力の結果が今日の姿となって残されたのである。

**古典芸能の発生の社会的基盤**

現在の古典芸能の直接の源泉は中世にある。詩や散文などと並ぶ文学のジャンルの中で最もおそく成立するのが劇文学であるのは世界共通の現象ではあるが、日本での劇文学ジャンルの成立は世界のそれに比べてまったく遅かった。なぜか。それは社会における人間相互の対立・葛藤が、人間自身の力で、つまり神仏の手を借りずに解決されるという、自らの力による自己実現の可能な社会の到来が日本では遅かったからなのだ。自然や神仏の冥助の有無に左右される農業社会から、自己の才覚・努力で利益を得る商業社会への社会的地盤の変化が劇（芸術としての芸能）には必要な条件であったのだ。それが日本では中世だったのだ。民間・民衆の芸能はこうしたに地盤の上で芸術に昇華したのだ。劇には本質的に登場人物の葛藤・対立がいかにしてカタルシスをもたらすかという問題が内在している。

**古典芸能鑑賞の勧め、私の経験から**

かつて日本人はエコノミック・アニマルだと世界からいわれた時期があった。今の日本はそんな元気さえないが。しかしその時期、古典芸能が世界に広く知られ、日本人の多くが日常これに接して愛していることが世界に認識されていたならば、そのような蔑称が贈られなかったのに、と私は思う。しかし現在でも多くの日本人は古典芸能を味わう心の余裕も時間もなく立ち働いている。かくいう私自身、三種合わせても年に十回を超える鑑賞機会は持ち得ない。しかし観るたびに感動はくっきりと心に残り、舞台の一シーンの面影が長く脳裏に焼き付いて離れない。今年の六月、平安神宮の薪能「半蔀（はじとめ）」の夕顔の姿もそうだ。又いつだったか歌舞伎座での日本舞踊、清元「隅田川」では私も妻も幼いわが孫の姿に重ね合わされて涙が止まらなかった。又ある時、大阪日本橋の国立文楽劇場で観た「重の井子別れ」の三吉の人形にも涙を押さえ難かった。生きてある生命の味わいは、古典芸能を通して確かなものとして得られる。何卒御観劇の程を。

（かない せいいち　文化学部教員）

## 「ロック・ソーラン」と風の盆

小林　一彦

学生諸君のなかに、ふるさとの民謡を唄える、あるいは踊れる人は、どれくらいいるだろうか。長崎の民謡「ぶらぶら節」を探しに行く小説が直木賞をとったことは記憶に新しいが、徐々に消えてしまう唄は、今後も少なくないと思う。その一方で、ロック調にアレンジされ、激しい振りの付いた「ソーラン節」や「よさこい節」などが、以前にも増して全国的に知られるようになり、若者の支持もあついと聞く。子供の通う小学校でも、運動会には地域の盆踊りではなくロック・ソーランを踊るらしい。

民謡研究の第一人者だった仲井幸二郎氏（1926－98）は、絶筆となった『口訳 日本民謡集』（蒼洋社、1999）のなかで、こう述べている。日本の民謡は背景にある庶民の生活にはりついている、庶民の喜びや悲しみの心情がこめられている、と。昨今の暮しぶりや価値観の変化を考えれば、ロック調の民謡が現れても不思議はない。しかしだからこそ、変化のスピードに違和感をおぼえる人々が、昔ながらの素朴で悠長な民謡に、心を寄せるのではないか。

私は産大に赴任して三年目だが、それまで富山県魚津市の小さな短大に十年ほど勤めていた。「万葉旅行」という名物の研修旅行では、最終日の夜、吉野山の宿で納会が行われ、教員も学生も、かくし芸を必ず披露しなければならない。毎年、珍芸奇芸が飛び出し大いに盛り上がるのだが、一度だけ、歓声や笑いが止み、大広間が静まりかえったことがあった。八尾町から通学していた二人の女子学生が、「越中おわら」を踊ったのである。胡弓も三味線もなく、唄や囃さえもない中、彼女たちはただ静かに踊り続けた。着物に編笠とはほど遠い、山歩きの服装のままだったが、しなやかな膝の構えや漂うような手の動きは、見事なまでに「越中おわら」であった。空気のゆらめく気配を肌が微かに捉え得たかどうか、そんな息をのむひとときが流れた。風の盆は、二百十日の暴風を鎮める祭りである。掌で空気をなだめすかし、微塵すら舞わせない所作に、遠い昔からの人々の祈りを受け継いで、彼女たちは、もの心ついた頃から、おわら節とその踊りに馴染んで大切にしてきたのだった。「仲井さんがいたら、何て言うかなあ」と、誰かが呟いた。

日本人の心意、心情を豊かに内に秘めて今日に伝承されている民謡は、「日本人とは何か」を確認するための大事な資料、と仲井氏は言う。実は、その時に研修旅行を欠席されていた「仲井さん」と、私はかつて同僚だったのだ。思い出多き山の学校は、春遅い雪国の桜を待たず、来年廃校になる。

（こばやし かずひこ　文化学部教員）

## お能のこと

位ノ花　俊明

その流行の範囲によって、地方の芸能であったり、「日本の」といわれる普遍的な芸能であったりする違いはありますが、歴史上ある時期に爆発的に流行し、その本質を失うことなく伝えられているものが伝統芸能と称されています。

もともと多くの地方に農耕に関わる土着の神事や芸能が起こっています。また渡来の散楽や伎樂に発する即興も含めた滑稽な物まねや、絵解きの性格をもった雑芸を専業とする芸能集団も生まれていました。

これらの芸能集団の中で、特に畿内にあって社寺に奉仕した芸団の中から、芸風を高めて、やがて能楽へと発展する集団が生まれてきました。

能楽の大成期は、京都を中心に国内の交易が庶民レベルでも活発化し、情報伝播の盛んになった時代でもありました。そのため、地方においても「都」の洗練された芸能に憧れを持ち、土着の芸能とは異なった価値をもつものとして、伝播されるにいたりました。

また、畿内に戦乱が続いた時代には、芸能師が地方の郷士を頼りに分散していったことにより、能楽もほぼ同じ形で地方に伝えられ、「日本の」伝統芸能の柱とも言える芸能になりました。

一方では、朝廷、社寺を中心とした雅楽、舞楽の流れもありましたが、これらの公家文化は「雅」をその精神の基盤においており、権力構造が公家から武家に移行することにより時の権力の支援を受けることなく、ただ、形のみが厳しく伝承されるに終っています。

能楽は、観阿弥、世阿弥の時代に、形や表現を「精神」「内面」に重きを置いたものに変わることにより大成されたと言われますが、それでも、当時の能楽は今よりももっとテンポの速い、判りやすい演劇であったようです。

過去の源氏物語や平家物語に題材を求めつつ「侘び寂び」を精神の基盤とする能楽が武家文化の精神的芸能としてもてはやされるのは、江戸時代を待たなければなりません。

江戸幕府が能楽を武家の式学とすることにより、禅、茶道、華道、香道などの様々な文化とともに、大名の庇護を得て、日本の古典芸能の代表と位置付けられるようになったのです。

能楽が「侘び寂び」に重きを置く式学となった後、庶民の娯楽性への回帰から歌舞伎への引用が始まりました。歌舞伎の勧進帳など今でも舞台背景に松が描かれ、「松羽目物」と称されて能楽から引用したことへの敬意を表すしきたりとなっています。

（いのはな としあき　図書館次長）

## 歌舞伎を楽しむために

野澤　ユメ子

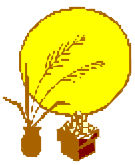
歌舞伎というと難しそうでとっつきにくいものに思われがちだが、一度その面白さを知ってしまうと、その奥深さに驚かされる。歌舞伎の世界に足を踏み入れるには、ほんの少しのキッカケが必要なだけだと思う。

私にとってのキッカケは、戸板倒しという歌舞伎の演出だった。「義賢最期（よしかたさいご）」という演目の最後で使われたのだが、２枚のふすまを並べて立てた上にもう１枚をのせ、そこに役者が立ち、絶妙のタイミングでふすまに乗ったまま、横に倒れたのである。高校生だった私には芝居の内容はよく分からなかったが、舞台から巻き起こる風と、アクロバットのような演出、そして役者の気迫に圧倒された。その時、これまで難しいと思っていた歌舞伎のイメージが取り払われ、気楽に楽しめるようになったと思う。

歌舞伎にはいろいろな演出方法があるが、中でもケレンと呼ばれる演出方法は人気がある。宙乗り、舞台での本水使用、早替りなどが代表的なものだが、以前、本水使用の立ち回りがある演目を最前列で見たことがある。その時見た「怪談乳房榎（かいだんちぶさえのき）」は舞台に滝が流れ、滝の中での立ち回りと、早替りが見ものだったが、1、2列目の観客にはビニールシートが配られ、水を使い始めるとみんなで一斉にシートをかぶった。役者もわざと観客に水がかかるようにするので、客席は大騒ぎだった。ケレンはその奇抜さで観客を引き付けるが、歌舞伎で必ずと言っていいほど使われる花道も、芝居の演出にも大きな役割を果たしていることが多い。他にも観客を楽しませる演出は数え切れない程で、見るたびに新しい発見がある。

私が歌舞伎を見るようになってかれこれ10年以上経つけれど、最近ますます歌舞伎の人気が高まり、身近なものになっている気がする。舞台だけでなく、テレビに出演する役者も多いし、今年の夏は現代演劇の野田秀樹さんが初めて歌舞伎の演出を手掛け、連日大入りだった。京都でも2年程前から、若手が活躍する花形歌舞伎が始まり、長く上演されなかった作品の再演など、毎年新しい試みがなされている。歌舞伎が身近になったのはインターネットのおかげもあるかもしれない。日本俳優協会などが作る歌舞伎の公式ホームページ（http://www.kabuki.ne.jp/）は情報が豊富だし、役者の中には自分のページを持っている人もいる。歌舞伎ファンのページも無数にある。そこには、歌舞伎の面白さを語る生の声があるが、実際に舞台を見るのとは違う。とりあえず、肩をはらずに見てみよう。これが歌舞伎を楽しむための第一歩だと思う。

（のざわ ゆめこ　情報サービス課）



## 古典落語はどんなんかな？

松本　恒平

古典落語と言う言葉が出てきたのは、昭和に入ってからのことである。落語はもともと「落し噺(はなし)」から「落語」と呼ばれていた。落語は、着物と座布団と扇子と手拭と口を使うシンプル且つ、奥の深い芸である。世界ではスタンダップコメディがあるが、世界で唯一シットダウンコメディが存在し、今や、日本で衰退気味の落語が海外で注目を集めて、外人の落語家まで出てくる様になった。

扇子や手拭が様々な小道具へと変貌していく。例えば、扇子が、キセルや串や刀、広げて頭にのせれば三度笠など。そして手拭は、本や財布や手紙に変わる。それを、演者は聞き手の者の想像をできる限り具体化するために使用していく。そして、噺を聞いている間は現代に居ながらにして昔の生活の世界にタイムスリップさせてしまう。そして、最後の落ちの部分で一気に現代へと帰れる。まさに、現代版頭の中でタイムスリップの世界だ！

落語のおもしろいのは、噺そのものが人間の生活を元にしたものが多い。例えば、子供が親に頼まれて「平林(ひらばやし)さんの所へ手紙を届けてくれ」とお使いに行く。

しかし、子供は、字や場所が分からずに人に尋ねて、尋ねられた人達もまともに字が読めず「たいらばやし」「ヒラリン」「イチハチジュウノモクモク」「一つと八つのとっきっき」と読んでしまい、目的地まで行こうとする。ここで凄いのは、漢字の中で音読みと訓読み、そして、漢字をばらして読んで、笑いにしている事。また、同じ漢字を使う中国では音読みや訓読みが存在しない事。まさに日本人だけにしか分からない独特の落語もあれば、前述した様に世界でも通じる物まで様々だ。

そして、お使いを頼まれて子供が出かけるのは今の時代でも存在する。例えば子供を、近くの八百屋まで買い物に行かせ、そこで起るハプニングをネタにしたテレビ番組がある。それを考えると、落語は四百年以上の昔でも今のテレビでも文化や生活は違えど人間の生活に根ざした物がネタになっていると思う。

そして、同じ噺でも、演者が違えば噺の脚色や演じ方までまったく変わってくるし、その人の人柄にも触れられるし、噺の登場人物にもなれる。今、この文章を読んでいる方の中で、落語が古いとか、見た事ない方、一度だけでも僕等の寄席に足をお運びください。プロではありませんがそれなりに楽しめると思います。今まで古いと思っていた物が、とても新鮮に感じられると思います。ちなみに、僕は二十四時間営業でございます。お呼び頂ければどこまでも行きまっせ！

（まつもと　こうへい　外国語学部３回生）

## 伝統芸能に関する５０選

1. 伝統芸能を知る本　日外アソシエーツ編　/ 770.3-NIT　955333/C2(参考図書)
2. 英語で話す「日本の伝統芸能」　小玉祥子著　/ 772.1-KOD　932964/C2
3. NHK 日本の伝統芸能　歌舞伎鑑賞入門 能・狂言鑑賞入門…　/　770.4-NIH　821669/C2
4. 日本の音と楽器　小紫はるみ著　/　768.1-KOS 828593/C2
5. 大道芸・寄席芸 大野桂著 / 779-OON　828592/C2
6. 日本の祭りと芸能１,2　芳賀日出男著　/ 386-HAG-1,2　828590,828591/C3
7. 人形芝居と文楽　後藤静夫著　/　777-GOT 828589/C2
8. 歌舞伎と舞踊　石橋健一郎著　/　774-ISI 828588/C2
9. 能と狂言　児玉信著　/　773-KOD　828587/C2
10. 雅楽　高橋秀雄著　/　768.2-TAK　828586/C2
11. 伝統芸能の展開　熊倉功夫編　/ 210.5-NIH-11 797690/C2
12. わたしのアルバム伝統芸能の系譜　本田安次著 /　386.7-HON　818584/B1
13. 人形芝居と能　三田村鳶魚著　/　386.7-MIT 896575/C2(文庫)
14. 神楽新考　岩田勝著　/ 386.7-IWA　861653/B1
15. 江戸の神楽を考える　中村規著　/　386.7-NAK 865629/C3
16. 京の芸能 王朝から維新まで　守屋毅著　/ 386.7-MOR　461775/C2B(文庫)
17. 郡上おどり 熱狂！真夏の大舞踏会　三井政二著 /　386.7-MIT　515682/C3
18. 越中おわら社会学　北日本新聞社編　/ 386.7-KIT　531904/C3
19. 巫と芸能者のアジア 芸能者とは何をするのか 野村伸一著　/　386.7-NOM　822763/C2(文庫)
20. 民俗芸能採訪録　本田安次著　/　386.7-HON 640111/B1
21. 狂言じゃ、狂言じゃ！　茂山千之丞著　/ 773.9-SIG　947825/C2
22. 狂言の形成と展開　橋本朝生著　/　773.9-HAS 902766/C2
23. 萬斎でござる　野村萬斎著　/　773.9-NOM 897616/C2
24. 狂言入門 鑑賞へのいざない　/　773.9-KYO 902352/B1,782385/C2(大型本)
25. 壬生狂言 重要無形民俗文化財　多田学写真・文 /　773.9-TAD　590256/C2(京都関係)
26. 狂言 落魄した神々の変貌　戸井田道三著　/ 773.9-TOI　849551/C2
27. 壬生狂言の魅力　梅原猛 西川照子著 井上隆雄 写真　/　773.9-UME　821778/C2(京都関係)
28. 歌舞伎漫筆　山川静夫著　/　774.04-YAM 948147/C2
29. 歌舞伎の源流　諏訪春雄著　/　774.2-SUW 933922/C2
30. 歌舞伎の歴史　今尾哲也著　/　774.2-IMA 932510/C2(文庫)
31. 三代目尾上菊五郎　岩沙慎一著　/ 774.28-ONO 923191/B1
32. 江戸歌舞伎の美意識　服部幸雄著　/ 774.2-HAT 902472/C2
33. 歌舞伎にみる日本史　佐藤孔亮執筆　/ 774-SAT 890474/C2
34. 歌舞伎をつくる　服部幸雄編　/　774-HAT 890306/C2
35. 幸四郎の見果てぬ夢　松本幸四郎 水落潔著　/ 774.28-MAT　791240/C2
36. 勘三郎の天気　山川静夫著　/　774.28-YAM 726355/C2(文庫)
37. 歌舞伎ちょっといい話　戸阪康二著　/ 774.04-TOI　700403/C2
38. 歌舞伎入門 鑑賞へのいざない　/　774-KAB 821475/C2
39. 人形浄瑠璃舞台史　人形舞台史研究会編　/ 777.1-NIN　902748/C2
40. かしら 人形浄瑠璃の首　斎藤清二郎著　/ 777.1-SAI　858910/C2
41. 文楽　岩波書店編集部編 岩波映画製作所写真 /　777.1-BUN　516415/B1
42. 文楽・歌舞伎　内山美樹子 志野葉太郎著　/ 777.1-UTI　788711/C2
43. 文楽談義 語る･弾く･遣う　義太夫研究会編著 /　777.1-GID　687836/C2
44. 本田安次著作集　1～20　/　386.7-HON / B1
45. 岩波講座 歌舞伎･文楽 １～9 / 774.08-IWA /C2

**視聴覚資料**

46. NHK 日本の伝統芸能 1～5(舞踊) /　3G 769.1-NIH / C1
47. NHK 日本の伝統芸能 1～4(能楽・能狂言) /　3G 773-NOU / C1
48. NHK 日本の伝統芸能 1～5(歌舞伎)　/　3G 774-KAB / C1
49. NHK 日本の伝統芸能 1～5(文楽) /　3G 777.1-BUN / C1
50. 日本の伝統芸能シリーズ 1～50(大衆演芸) / 2E 779.15-HIR / C1

---

発　行　京都産業大学図書館
所在地　〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
電　話　(075)705-1470